

子どもを権利の主体として
尊重する

子どもが「自由に」「安心して」
意見を言える環境

大人が、意見を軽じたり
子どもの尊厳を傷つけてはいけない

1. 子どもへのヒアリング方法

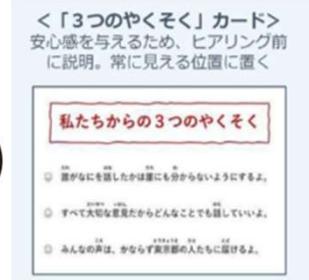
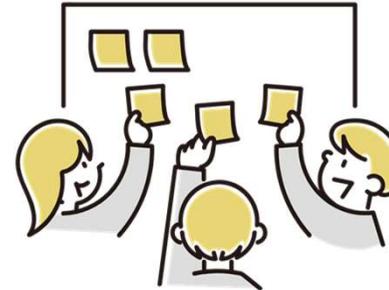
体制：子ども4～6名につきファシリテーター2名
(受け入れ先の状況等により対象人数は変更の可能性あり)

形式：ワークショップ形式

進め方：

- ①ファシリテーターの問いごとに子どもが付箋に回答を書き込み模造紙に貼る
- ②出た意見をファシリテーターが掘り下げ付箋に書き込み模造紙に貼る

※参考 [東京都実践事例集 p16, 19, 21-24, 26, 29](#)



2. ファシリテーターの資格・研修

資格：日常的に子どもと対話する業務に1年間以上従事した実績を有する
回答を強制・誘導せず意見表明ができる雰囲気作りができること
アドボカシーに関する研修を受けるなどしていること

経験例：プレーワーカー・保育士・地域コーディネーター・ユースワーカー
研修や取り組み：①研修 ②ファシリテーター同士共有会

※参考 [東京都実践事例集 p31-33, 35, 36](#)



緊急時の対応フロー

ヒアリング中に虐待やいじめの開示
があることがあります。
その際は対応フローを基に慎重に・
迅速に対応します。

フィードバックの考え方について



※参考 [東京都実践事例集 p47](#)

3. ヒアリングの流れと設問（案）

子どもの状況を見ながら、ヒアリングを進めていく（有識者・施設と意見交換しながら最終決定する）

①アイスブレイク

- ・好きメーカー
- (例) 狛江好き?何%くらい?その理由
- ・鬼ごっこ・雑談

②日常の遊び・困りごと

- いまの現状に対しての意見聴取
- (例) 「何に困ってる?いつもどんなことして遊んでる?」

③権利について考えよう

- 「こんな権利がほしい」を
考えてみよう!

④なぜその権利が

- ほしいか教えて
「これってどうして?」
(権利の背景)

